

〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8
TEL:0568-88-0811 FAX:0568-88-0839
<https://www.pref.aichi.jp/addc/>



これはネットの取り組み ~リハビリ部門~

KONOHA net.

リハビリテーション室長 門野 泉

今年度4月より、当院では「これはネット」での診療を開始いたしました。これは、障害児者医療に関わる専門職種間の情報共有を図り、患者さんに包括的な支援を行うためのものです。ネットワークには通院されている皆様を軸にして、近隣の施設や訪問看護ステーション、最近では教育機関にも登録いただき、情報共有の輪が次第に広がっています。

リハビリ部門では、情報共有を行うための「電子@連絡帳」とオンライン診療を組み合わせた診療を行っております。オンライン診療では、訓練で提案した課題が自宅でどのように行われているかを確認してアドバイスをしたり、食事場面の診察では摂食・嚥下の様子を始め、食具や周囲の環境などもあわせて確認したりしています。病院での診療では今までできなかった、日常の自然な様子を診察でき、環境調整にも生かせるという点で、大変意義を感じています。また電子@連絡帳では多職種、多施設で方針や方法を共有できる上に、細やかな感情の共有ができることが重要であると感じます。そしてリハビリ部門の今後の発展として、訓練内容の可視化や評価方法の統一を目指すきっかけにしたいと思っております。

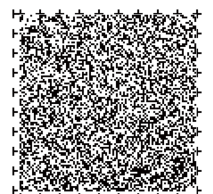


11月某日、名古屋で開催されました「第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会」において、この取り組みについて発表させていただきました。周囲からの関心は高く、先進的な取り組みであるとの評もいただき、詳しい運用の方法についてなど様々なご質問をいただいて活発な討論が行われました。

今後はより多くの方々にネットワークの良さを感じていただけるよう、努力してまいります。

Contents

これはネットの取り組み(リハビリ部門).....	1
グループ外来紹介、新任医師紹介・専門・認定看護師紹介.....	2・3
外来紹介・診療科紹介(子どものこころ科).....	4・5
療育支援センターの活動・研究所ピックス(細胞病態研究部).....	6・7
Topics	8



「グループ外来」の紹介

小児内科・遺伝診療科 稲葉 美枝

小児内科・遺伝診療科では(染色体や遺伝子の違いのある)先天的な小児の症候群の診療を行っています。今回は、先天的な小児の症候群の患者さん及びそのご家族を対象とした「グループ外来」をご紹介します。

ご家族の方が最新の医療情報を得て、他のご家族と知り合う機会を作る取り組みとして、2007年からグループ外来を継続的に実施しています。第一回はダウン症候群、その後ソトス症候群、歌舞伎症候群、プラダー・ウィリ症候群、モワット・ウィルソン症候群、CFC症候群、CHARGE症候群など、年3回企画し、先日第38回目を開催しました。前半に医師、作業療法士などスタッフから講義形式で疾患に関するお話をします。後半は、家族を中心に車座になって子どもたちも交えながら、ご家族からの質問に経験談を交えて他のご家族がお話したり、スタッフからお答えしたり交流会企画となっています。臨床心理士、看護師、保育士、認定遺伝カウンセラー、栄養士、地域支援課や運用部のスタッフなど多職種が関わっている病院の取り組みです。2020年、2021年はCOVID19感染拡大防止のため集まって交流することができなかつたので、初めてオンラインで開催しました。遠方からの参加が可能になったり、家の中での工夫していることや使用している物を画面を通して直接見せてもらえたりするといったメリットがありました。

今後も、希少疾患の家族支援の取り組みとして、時代に合わせて試行錯誤をしながら継続的に開催していきたいと考えています。



オンラインでのグループ外来の様子。約10人の患者さんとそのご家族と画面越しに繋がっています。

新任医師紹介

Hello! Doctor

今年度中央病院に着任した1名です。
よろしくお願いいたします。



小児外科



里見 美和

令和3年7月から当院に赴任してきました里見美和です。

他科の医師やコメディカルの方々が話しかけやすく、きちんと仕事をこなしてくれるので働きやすい職場だと感じています。外科に相談したい患者様がおられましたらお気軽にお声掛けください。よろしくお願いいたします。

専門・認定看護師紹介

当院には日本看護協会・日本精神科看護協会・日本重症心身障害福祉協会認定の資格を有した看護師が複数人在籍しています。各領域の専門性を活かし、質の高い看護を提供するだけでなく、指導・教育を行うなど院内外で活躍しています。その中で、今回は精神看護専門看護師・精神科認定看護師と摂食嚥下障害看護認定看護師についてご紹介します。

精神看護専門看護師

伊藤 環

(日本看護協会認定)

精神科認定看護師

鵜飼 秀明

(日本精神科看護協会認定)



皆様、初めまして、こんにちは。当院には、精神分野で専門看護師と認定看護師が勤務しています。主に、病棟に入院する発達障害児や不登校、被虐待児へのケアを行っています。入院治療が終了し、外来受診へと移行された患者様とそのご家族に対しても、外来で定期的に看護面談を行い、できるだけ自宅で安定した生活が送れるように支援を行っています。院内の活動としては、リエゾンとして活動しています。リエゾンはチームで活動していて、精神科医と心理士の3名で動いています。リエゾンとは、患者様が身体疾患を抱えながら治療する中で、精神的なサポートを行い、スムーズに治療が受けられるように橋渡しをすることです。

身体疾患の治療中、もし、何かご不安や心配な事がございましたら、お近くの病棟看護師に声をかけて頂けますと、リエゾンチームに連絡が入りますので、訪問させていただきます。



摂食嚥下障害看護認定看護師

佐久本 毅

(日本看護協会認定)

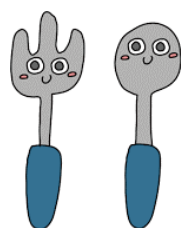


摂食嚥下障害看護認定看護師

岩田 直子

(日本看護協会認定)

「食べること」は人間の基本的欲求の一つです。しかし、当院を利用される患者さんの中にはその「食べること」が何らかの理由によって難しい場合があります。そのような時には状態を適切に把握し、機能に応じた食事環境調整を行う等、ひとり一人に適切な食事環境を整えることが重要になります。そこで、私たちは一人でも多くの患者さんの食事環境を整え、一口でも食べられるように、食べ続けられるように「おいしく・楽しく・安全に」をモットーに活動しています。また、より専門的な介入が必要な場合には嚥下サポートチーム(DST)の一員として、多職種と連携した活動も行っています。「食べること」を通して患者さんのQOLが向上できるよう、看護師として関わらせていただきます。



「食べること」でのお困り事、ご相談事がありましたら、お近くの看護師へお声がけください。

外来部門

患者さんにご家族に、親切で丁寧な対応を心がけ、
診療や検査を安心・安全に受けられる看護を提供しています。

当院は、身体的に障害のある人や精神・行動に障害のある人、心の問題で悩んでいる人たちが多く来院されている病院です。外来では多岐に渡る専門的な診察や検査が行われ、医師や看護師、放射線技師や臨床検査技師など、多職種のスタッフと連携を取りながら、スムーズで適正な診療が受けられるようにしています。

いつでも
話しかけてね

平成31年3月に新病院に移転し、電子カルテが導入されてから、外来の運用は大きく変化しました。当初は、スムーズに診察や検査を受けて頂くことを重視し、看護師は診察室やバックヤードにいる事が多くなっていました。すると患者さんやご家族から、「看護師さんの姿が見えない。話かけられない。」などの声が聞かれるようになり、外来看護師本来の「在宅で過ごす患者家族に寄り添う看護」「声を掛けやすい看護師の存在」を取り戻すべく、業務改善や看護師の役割について話し合いを重ねてきました。



現在は「待合に看護師は必ずいるようにしよう!」「積極的に声をかけよう!」をスタッフで意思統一し、日々励んでいます。さらに、患者家族の心配事や困りごとなどを、医師をはじめ認定看護師、地域支援課、病棟看護師に「繋ぐ」ことを目標に掲げ、在宅での生活が少しでも安心して過ごせるように努力しています。

昨今のコロナ感染流行のため、診察の待ち時間に楽しく過ごしていたプレイルームや本棚を撤去せざるを得なくなりました。そのような中でも、少しでも患者さんが楽しめるように、四季折々のテーマで患者参画型の壁面装飾を行っています。感染対策で色鉛筆は使えませんが、子どもたちはシールやボールペンを使って、可愛らしくなった装飾をたくさん貼ってくれています。

また、外来では血液検査がよく行われます。乳児から成人まで、さらに、身体面や精神面でそれぞれ特徴のある患者さんの採血は大変です。そこで、昨年度から、個々の患者さんの採血時の情報を記入した『採血カルテ』を作成し、採血時の情報を「繋ぐ」ことで、痛みを伴う採血が少しでもスムーズに、患者さんに合った方法で行えるよう努力しています。

みんなの
作品のおかげで
賑やかになったよ



診療科紹介

～子どものこころ科～



子どものこころ科は、

子どもの行動や情緒の問題を扱う診療科です。



初診は中学生年代までの子どもを対象とし、乳幼児期は言葉の遅れ、集団行動の苦手さなど、学童・思春期はコミュニケーションの苦手さ、学校への行きづらさ、衝動性の高さなどを主訴として受診されます。子どもの育ちや心の問題、行動面の問題、子育ての悩みなどについて、発達障害などの医学的・生物学的な問題や、家庭や学校などの生活環境の様子もふまえて、解決の方法を考えていきます。



必要に応じて、心理検査、心理療法、そして、自閉症スペクトラムをはじめとする発達障害児の親向け集団プログラムをご紹介することもあります(2021年度はオンラインで開催しました)。薬物療法を選択する場合は、効果とともに副作用について、保護者だけでなく、子どもたちにもわかりやすく説明するようにしています。

入院診療は、開放病棟(スカイ)と閉鎖病棟の2つの病棟があり、閉鎖病棟は知的障害児者のユニット(サン)と児童ユニット(レインボー)の2つのユニットからなり、知的障害のない小中学生向けの病棟はレインボーとスカイです。病棟は個室を中心に構成されています。プレールームでは創作活動、中庭では運動や園芸を行っています。安心安全について考え、人との距離やプライベートパーツなどについて学ぶ安全教室も行っています。必要に応じて、心理教育、心理療法、作業療法、キッズヨガなどを行っています。

小中学校の院内学級を併設しており、治療しながら学習することができます。医師、看護師以外に保育士、心理士、精神保健福祉士、院内学級の教員と多職種が診療に関わり、ご家族や外部の関係機関と連携し、退院に向けて準備をしていきます。



療育支援センターの活動

医療、看護、福祉分野の従事者向け研修を企画、運営することや

人材確保に向けた取り組みは、当センターが担う大切な役割の一つです。

今回は、その中心的業務を担当されている児童精神支援グループの川井課長補佐と松尾主査にお話を伺いました。

■ まず、お一人ずつ自己紹介をお願いいたします。

〈川井〉 看護専門学校卒業後に中央病院へ就職し、令和3年度から地域支援課に配属となりました。看護師ですが、現在は事務系の業務をしています。

〈松尾〉 私も看護専門学校を卒業後、中央病院に就職して障害児者看護に長い間携わり、昨年度からこの仕事をしています。

■ 担当されている主な業務についてお聞かせください。

〈川井〉 主な業務として、障害児者医療研修事業の運営、職員研修、実習生の受入れ、看護職員充足(病院見学・説明会、高校生1日看護体験など)、ボランティア受入を担当しています。障害児者医療研修事業は、医療・療育に携わる関係者を対象とし年10回実施しています。職員研修は、新規採用職員研修を4月～6月にかけて2回、総合センター職員(コメディカル含む)を対象とした救急救命研修を年1回センター内で実施しています。また、外部の関係機関等が実施する研修に所属職員が参加する際の橋渡しや必要な調整作業も行っています。

■ 業務に臨むにあたって、大切にされていることはありますか。

〈川井〉 確認・相談の徹底や『いつも通りで大丈夫か』を考えながら、業務をしています。

〈松尾〉 外部の方との連絡・調整が多いため、確実に丁寧な対応を心掛けています。

■ 『コロナ禍』の中でのご苦労や工夫・改善されていることをお聞かせください。

〈川井〉 従前の事業運営が通用しない状況下で試行錯誤する毎日です。職員と参加者の安全確保を第一として、①密回避、物理的距離を確保、座席表の記録保存②混雑のコントロール③参加者には開催当日までの行動や健康の適切な管理をお願いした上で、直近の感染者数及び県の動向を正確に把握し、開催の可否、申込者への連絡時期や研修内容や実施方法を判断するなど努めています。また、今年度は初めての試みとなるYouTube配信も実施しました。

〈松尾〉 研修事業については、今年度から中央病院ホームページに年間計画や、現在募集中の研修等を掲載しておりますので、関心のある方は是非覗いてみてください。申込受付も従前のFAXからWebシステムへ随時切り替えています。

■ 最後に、お二人からの医療・看護・福祉の業務に従事している、あるいは将来を担っていかれる方々に向けてのエールをお願いします。

〈川井・松尾〉

医療、看護、福祉の分野は人と人をつなぎ支える、大切な仕事です。新型コロナウイルス感染症の影響で、大変な思いをされている方がたくさんいらっしゃると思いますが、一緒に頑張りましょう。



川井補佐(右)と松尾主査(左)



細胞病態研究部では、主に疾患モデル動物から取り出した脳神経細胞やヒトiPS細胞を用い、自閉症や知的障害の発症メカニズムの解明とその治療法の開発を目的とする研究をおこなっています。今回、私たちが明らかにした研究成果の一部をご紹介します。

発達障害研究所 細胞病態研究部 主任研究員 稲村 直子



神経細胞の軸索には、グリア細胞の一つであるオリゴデンドロサイトによって作られた「髄鞘」と呼ばれる鞘が巻かれています。神経細胞が生み出す電気信号が、この髄鞘を跳び越えながら伝わること（跳躍伝導）で、私たちの脳は膨大な量の情報をすばやく処理することが可能となります（図1）。髄鞘は、運動能力や知的能力の発達がピークとなる乳幼児期から青年期にかけて最も盛んに作られます。このため、この時期に髄鞘が正しく作られなかったり（髄鞘形成不全）、壊れてしまったり（脱髄）すると、脳に重篤な障害が生じることとなります。特に最近、発達期に生じたオリゴデンドロサイトの異常が、自閉症や知的障害の直接の原因となることが明らかとなってきています。

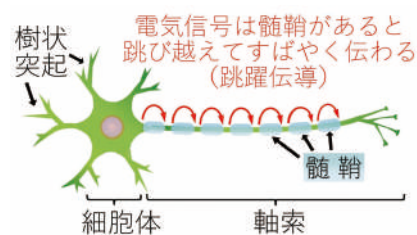


図1：神経細胞の構造(有髄神経)

乳幼児期に発症する中枢脱髄性障害の発症には、マイクロRNAの異常が関与する

今回、私たちが注目したクラッペ病は、主に乳幼児期に脱髄を発症する遺伝子異常に起因する疾患の一つです。サイコシンと呼ばれる毒物がオリゴデンドロサイトの中に貯まり病気を引き起こしますが、そのメカニズムには未だに不明な点が多く、治療法も定まっていません。そこで私たちは、クラッペ病のモデルマウスからオリゴデンドロサイトを取り出し、病気のメカニズム解明の鍵となる分子を探すことにしました。

その結果、正常なマウスの脳から取り出したオリゴデンドロサイトを顕微鏡下で観察すると、髄鞘を作るための膜が網状に大きく広がっていく様子が観察されますが、クラッペ病マウスのオリゴデンドロサイトは、膜を拡げられず、徐々に死んでしまうことが判りました（図2）。さらに、病気のマウスの脳では、オリゴデンドロサイトの発達をつかさどるmiR-219と呼ばれるマイクロRNAが減少し、それらを補うことでオリゴデンドロサイトの障害が回復することを、世界で初めて明らかにしました（図3）。

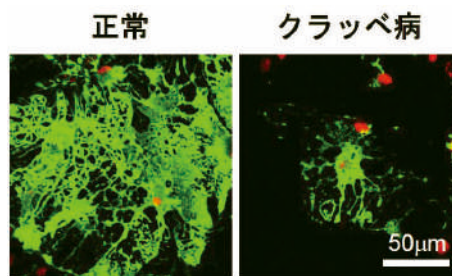


図2：正常なマウスのオリゴデンドロサイト(左)は髄鞘を作るために膜を大きく広げるが、クラッペ病のオリゴデンドロサイト(右)では萎縮して死んでしまう。

マイクロRNAは、様々な遺伝子の働きを調整する事によって細胞の発達や生存に深く関与することが知られます。最近、がんや神経疾患の治療薬としても役立つことが明らかとなり、注目されています。今回私たちが明らかにしたmiR-219が、オリゴデンドロサイトの発達異常を伴う様々な病気のメカニズムの解明や治療薬として役立つことが期待されます。



図3：miR-219を補うことで、クラッペ病のオリゴデンドロサイトの発達異常が回復する。

トピックス Topics



はるひの家編 ～買物の支援～

はるひの家では、月に1回を目安に買物の支援を行っています。児童とセンター1階にある売店へ行き、お菓子や雑誌など児童に好きなものを選んでもらい購入しています。買物では財布からお金を出す、事前に決めた個数を守る等、児童一人一人の能力に合わせ買物に取り組んでいます。「早く買物に行きたい」と児童も買物を楽しみにしています。



お金を払っている様子



買ったラーメンを食べている様子



おやつを選んでいる様子

～第2回センターふれあいフェスティバルを開催しました～

2021年9月24日から10月22日まで、センターふれあいフェスティバルをオンラインで開催しました。

医療療育総合センターでは、センター内外の方々とともに楽しみながら相互理解を深めることを目的として、1973年から「センターふれあいフェスティバル(旧コロニー祭)」を行っております。

昨年は新型コロナウイルス拡大防止のため中止とさせていただきますが、今年は「離れていてもともに支える」をテーマにオンラインで開催しました。



フェスティバルサイト(現在は公開終了)



YouTubeチャンネル

愛知県医療療育総合センターのYouTubeチャンネルを開設しました。チャンネルでは、センターを利用していただくにあたって役立つ情報を提供してまいります。以下をクリックすると、YouTubeチャンネルまたは動画が開きます。

愛知県医療療育総合センターYouTubeチャンネル

センター各部門の動画一覧
【医師インタビュー】 三浦清和医師「障害者医療とクビには似ている!？」
【医師インタビュー】 伊藤寛和医師「スバット解決! 座墊のギモン」
【小児内科/遺伝診療部】 遺伝診療ってどんなことをやっているの?

センターWEBページに動画一覧を掲載しています

中央病院などセンターからは29本の動画を公開しました。また、センターをいつも支えてくださっている方々(9団体)からは54本もの動画を提供していただき、多大なるご協力をいただきました。フェスティバルサイトには約3,000回のアクセスがあり、また同程度の動画視聴をしていただきました。

センターから出展した動画の多くはセンター公式YouTubeチャンネルに引き続き掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



第三期工事のお知らせ

現在、旧発達障害研究所、旧中央病院等の取壊し工事及び駐車場等整備を実施しております。工事期間中は駐車場の変更や通行規制など医療療育総合センターを利用される皆様に大変ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。なお、駐車場所の変更や通行規制等の情報については、ホームページに最新の情報を掲載しておりますので来院前にご確認ください。